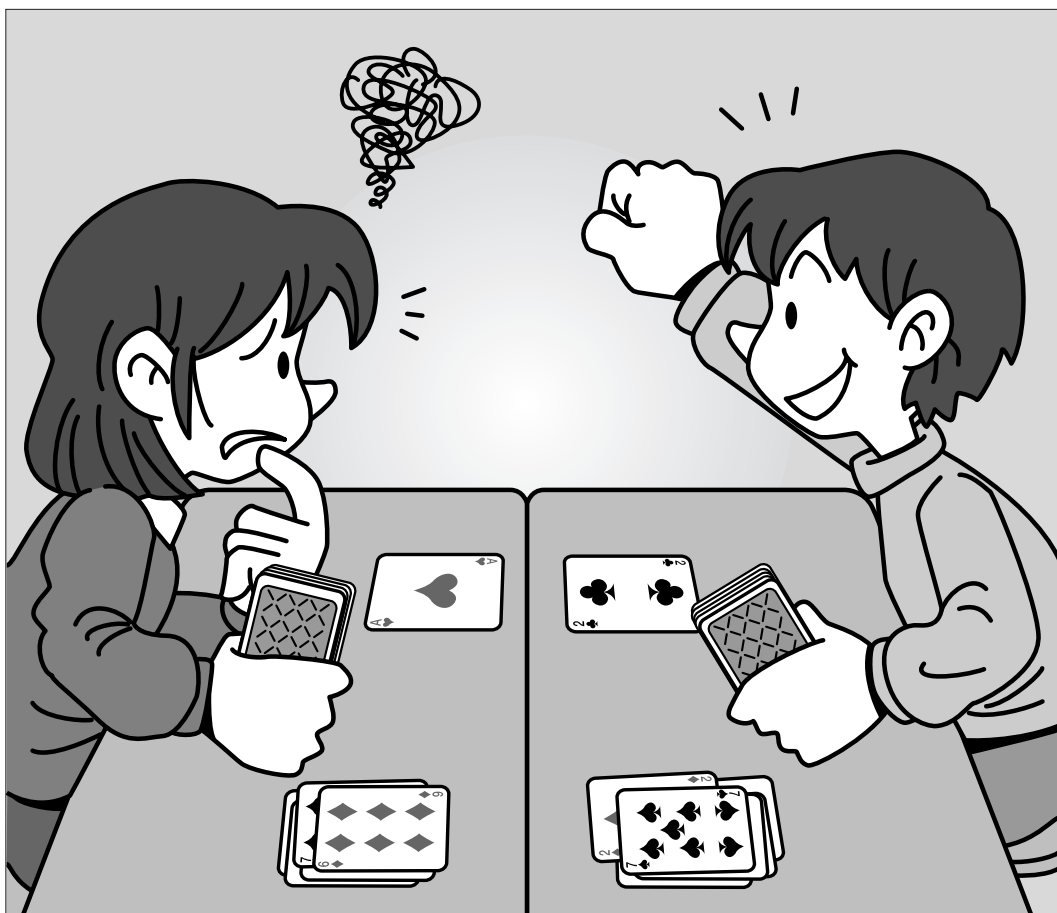


トランプを使ってカード取りゲームをしよう！



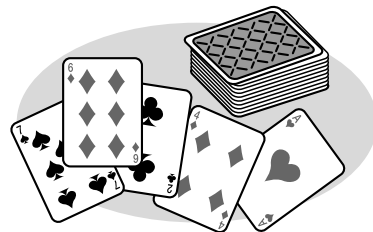
本時のねらい

ゲームでトランプの枚数を数える活動を通して、10の束を作って数えるよさに気づくとともに、20をこえる数の数え方を理解する。

準備物

教師：トランプ1セット

児童：トランプ2人で1セット



単元導入時のポイント

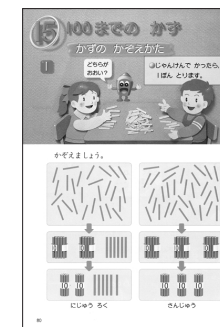
教科書では、50～70本程度の数え棒を2人でじゃんけんをしながら取り合っていくゲームで導入している。50～70本程度という数は、2人で取り合っていて、1人分が20～50本までになると見込んで設定してある。20までの数は既習で、本単元では100までの数の数観念を養うことをねらいとしているから、あまり大きな数ではない20～50までの数は、導入段階である本時で扱うのにちょうど適している。本時の導入案では、数え棒のかわりにトランプを使用した。トランプは手に入れやすい玩具の一つであり、2人に1セットなら十分用意できると思われる。また、トランプは全部で54枚あるため、50～70程度という数の範囲にも適している。ゲームの方法としては、数え棒の場合は、じゃんけんが勝った方が棒を取るというものであるが、トランプの場合は、2人の出したカードにかかれた数を比べ、数が大きい方がもらえるというルールにするとよい。そうすることで、既習である20までの数の大小比較についても確認・練習をすることができる。

十進位取り記数法における2位数として「10の束がいくつと、1のばらがいくつ」という表現を習得するために、下記の4点を授業の中で大切にしながら導入を行う。

- ・実際に数える活動を通して、数え方の工夫や表現の工夫を取りあげる。
- ・10のまとまりを作って数えると、数えやすくわかりやすいというよさに気づく。
- ・練習を通して習熟をはかる。
- ・ひと通り学習した後に、もう一度ゲームに戻って学習したことを生かす。

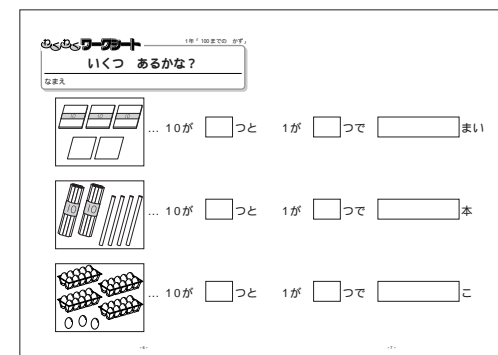
教科書活用の工夫

トランプのカード取りゲームを通して、トランプの枚数を数える工夫をしたら、実際に数え方の練習をさせることが効果的である。フラッシュカードのように絵を示して口頭で答えさせたり、ワークシートを使って記述させたりする方法がある。その後で教科書p. 80の数え棒の絵を示して、いくつあるかを考えさせる。教科書には「何十何」と「何十」の両方の数について取りあげられているので、「何十」という言い方についても確認することができる。





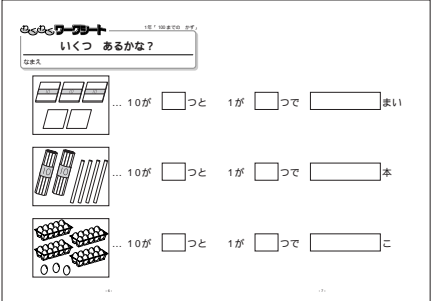


ワークシートの特長

教師が練習のときに示す絵と同じものを載せている。全体で学習した後、確認としてやらせてもよいし、家庭学習用に渡してもよいだろう。「10がいくつと、1がいくつ」という表現の練習もできるように、穴埋め式になっている。



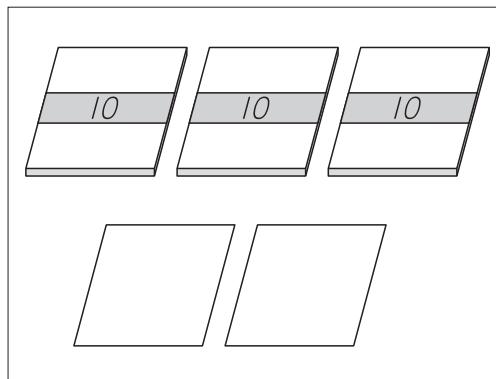
導入時の展開例

学習内容	児童の活動	指導上の留意点
トランプを使ってカード取りゲームをして、取った枚数を工夫して数えてみよう。		
<p>・ゲームの内容を理解する</p> <p>・ゲームの仕方とルール</p> <p>・トランプ1セットを用意して2人組で行う。</p> <p>・トランプを赤カード+ジョーカー(27枚)と黒カード+ジョーカー(27枚)の2つに分け、1人が赤、もう1人が黒のカードをもつ。</p> <p>・カードをよく切り、かけ声とともにカードを1枚表向きにして出す。</p> <p>・カードにかかっている数の大きい方が、相手のカードをもらうことができる。Jは11, Qは12, Kは13, ジョーカーはいちばん強いカードとする。相手と同じ数のカードが出たときは、そのカードは出したまま次のカードを出し、数の大きい方が、先に出しておいたカードもあわせてもらうことができる。</p> <p>・最初に配った手持ちのカードがなくなったら終わり。それぞれ取ったカードの枚数を数えて、多い方を勝ちとする。</p>	<p>・ゲームの説明をするときに、本時は数えるという学習であることを意識づける。(数え方の工夫・数の読み方)</p> <p>・ジョーカーの扱いは、各クラスでルールを決めてもよい。</p> <p>・2人の児童に黒板の前で実際にゲームをさせる。それを見ることでゲームへの興味・関心を高めるとともに、ルールを具体的に理解させる。</p>	<p>・ゲームのやり方がわからずにとまどっている組には机間指導をする。</p> <p>・ゲームをする様子を見てまわり、児童の数え方も観察する。</p>
<p>・ゲームをする。</p> <p>・2人組になってゲームをする。</p> 	<p>・カードを何枚取ったか工夫して数える。</p> <p>・数の数え方と読み方</p> <p>1枚ずつ数える。 1 2 3 ...</p> <p>2枚ずつ数える。 2 4 6 ...</p> <p>5枚ずつ数える。 5 10 15 ...</p> <p>10枚ずつ数える。 10 20 30 ...</p>	<p>・画用紙に、児童のさまざまな数え方をかいて提示する。</p> <p>こういう方法で数えている人を見つけましたよ。</p> 

	<p>・どの数え方が、相手にも見てすぐわかるかを考える。</p> <p>・10枚ずつの束にして数える方法のよさを考える。</p> <p>・カードを10枚ずつの束とばらに分けて机の上に置き、お互いの枚数を数える。 10の束が3つと、ばらが2枚で「さんじゅうにまい」 10の束が2つと、ばらが2枚で「にじゅうにまい」</p>	<p>・画用紙の絵を示しながら、児童にどれと同じ数え方をしたのかを挙手させ、よりよい数え方を考えさせる。</p> <p>・10枚ずつの束にする方法のよさを確認してから、全員で試してみる。</p> <p>・「10がいくつと、1がいくつ」という表現から、全部でいくつと言えるように練習する。</p>
<p>・練習問題 ワークシート</p>	<p>・教師が示した絵を見て、「10がいくつと、1がいくつ」という表現を練習する。</p> 	<p>・画用紙に絵をかいて、フラッシュカード式に見せて練習をする。</p>
<p>・数の読み方の確認 教科書p. 80</p> 	<p>・教科書の2つの例をもとに数の読み方を確認する。</p> <p>10本の束が2つと、ばらが6本で「にじゅうろく」</p> <p>10の束が3つで「さんじゅう」</p> 	<p>・10がいくつと1がいくつで何十何と読む。</p>
<p>・ゲームにもどって実践する</p>	<p>・もう一度ゲームをして実際に10枚ずつ数え、枚数を調べる活動を行う。</p>	

いくつ あるかな？

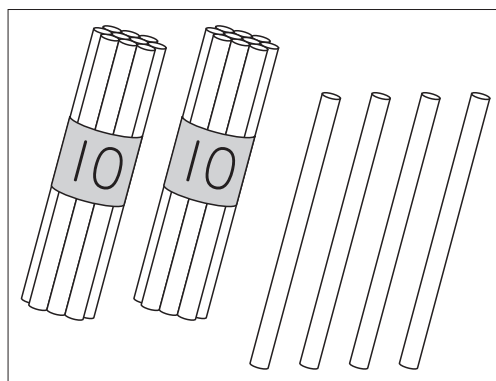
なまえ



... 10が つと

1が つで

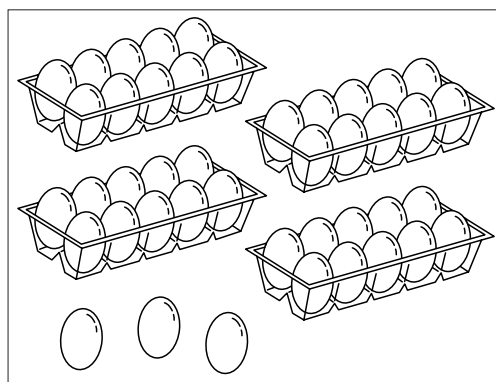
まい



... 10が つと

1が つで

本



... 10が つと

1が つで

こ